

## 令和5年度第2回浜田地区教科用図書採択協議会議事録

1. 日時	令和5年7月12日(水) 9時30分から15時30分まで
2. 場所	江津市職員会館 会議室
3. 出席	各市町教育委員会教育長6名、保護者代表2名、事務局4名
4. 協議・ 確認 事項	(1)教科用図書調査研究報告、質疑 (2)教科用図書採択審議、選定 (3)その他
事務局	第2回浜田地区教科用図書採択協議会を開催する。 会長あいさつをお願いします。
会長	今日の会議は、令和6年度から使用する小学校用の教科書について、調査員代表者からの報告を受け、協議会として教科書を選定することを目的としている。 調査員は多忙な中調査・研究に当たってもらい、大変だったと思う。教育長方も、機会があれば調査員へ感謝の言葉を伝えていただきたい。 協議会に求められるのは公平・公正な採択である。調査員代表者からの報告を参考に、丁寧な採択事務を行っていきたい。 また、本日の結果を各市町の教育委員会へ持ち帰って協議していただき、その結果をもって第3回協議会で最終決定する流れとなる。 長時間の会議となるが、よろしく願います。  では、本日のスケジュール等、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料により説明
調査員代表	<b>(1)教科用図書調査研究報告、質疑</b> <b>国語</b> 調査研究報告(資料3) 推薦図書はA社のもの。 理由としては次のとおり。 ○写真、挿絵、資料等と文章の構成や、改行の位置や文字のフォント・大きさ・色等が工夫され、シンプルですっきりとした紙面のレイアウトになっている。読みやすく、かつ、見やすくなっているので学習への集中しやすさが期待できる(特別支援教育への配慮にもつながる)。 ○1年生のスタートカリキュラム対応として、文字やページ数が大きく示されていたり、リズムに合わせて発音と動作を組み合わせて理解を促すような工夫があったりするなど、学習の導入期において有効である。

- どの学年も共通して年度当初に、学級づくりや対話、音読・朗読教材、情報の扱い方（学校図書館活用）が位置付けてあり、国語の基盤作りを重視している。
- 国語科と他教科とのつながりのある教材、日常生活・学校生活とのつながりのある教材、様々な学習活動を行う教材等、児童の興味関心をひきそうな多様なテーマに対応した内容となっている。
- 単元初めに「見通す」「取り組む」「ふり返る」3段階で「学習の流れ」が示されているので、児童が学習内容の見通しをつけやすく、主体的に学習できる。また、「言葉の力」として、単元で育成したい資質・能力がわかりやすく明示してあり、意識しながら学習することができる。教師も見通しや評価がしやすくなっている。
- 二次元コードが多数記載されており、学習の振り返りや関連教材、音声教材、練習問題等がデジタル資料として充実している。

各委員

質疑なし

調査員代表

### 書写

調査研究報告（資料3）

推薦図書はA社のもの。

理由としては次のとおり。

- イラストで穂先の向きや使い方がわかりやすく表現してある。
- 巻末の「書写のかぎ」で学びを振り返りことができる。
- 「書写の学び方」を見ると、見通しをもって取り組みやすい。
- 擬音で「とん・すう・ぴた」を意識して指導することができる。
- 両開きで学習の流れがよくわかる（1・2・3と書いてある）。
- 毛筆の学習を硬筆に生かし、書写の学びが日常につながるような構成になっている。
- 発展的な学習が充実している。
- 「展開」で児童同士の対話が繰り広げられる構成になっている。
- 練習量が適量である。
- QRコードで自分の書く時の様子やポイントを確かめることができる（硬筆は両利き用あり）。
- 低学年の「しょしゃたいそう」が児童の意欲付けになっている。
- 硬筆練習の際に、上の文字を見ながら書けるため使いやすい。
- 画と画の交わる際に色が濃くなっており、具体的でわかりやすい。
- 1年生の鉛筆の持ち方の写真が両利きあり、指導しやすく、児童もイメージがしやすい。
- 発達段階によって差が出やすい「むすび」の指導がわかりやすい。
- 手首を上手に使うことを意識できる「はらい」等の運筆練習がある。
- 墨や硯や半紙のでき方の動画があり、分かりやすい。
- 石州半紙が取り上げられており、児童が書道用品を身近に感じられる。

### 質疑応答

- 委員 Q. A 社の教科書では石州半紙や書道道具について取り上げられていたとのことだが、調査員として特に関心を持った部分はどこか。
- 調査員代表 A. QR コードを読み取ると、和紙、硯、墨の作り方等を学ぶことができる点である（3 年 P18）。また、分量も適当で、表記してある内容もわかりやすく、指導しやすいように感じた。
- 会長 Q. これまでの教科書に掲載されていたデジタルコンテンツ（二次元コードを読み取って利用するもの）との違いはあるか。
- 調査員代表 A. 内容の変更はあまり見受けられないが、他社と比べてときに、A 社のものが使いやすく、わかりやすいように感じた。また、教科書のサイズが小さく、児童が毛筆に取り組む際に机上の整理がしやすいという利点もある。

### 社会

- 調査員代表 調査研究報告（資料3）  
推薦図書は A 社のもの。  
理由としては次のとおり。
- 5 年と 6 年が分冊となっていて、児童が持ち運ぶ際の負担が少ない。
  - 字体が読みやすく、文章と資料のバランスも良いため、全体的にすっきりとした構成になっている。また、重要語句（キーワード）が太字ゴシックで強調され、別枠で丁寧に解説されているので、児童が理解しやすい。
  - 「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という問題解決的な学習を促す表示が明確になっている。学習問題も字体を変えて目立たせている。
  - 馴染みのあるキャラクターを随所に活用し、社会科の見方・考え方を意識しながら学習への興味づけを図っている。
  - QR コードから、動画でのより詳しい〇〇さんの話や独自のコンテンツ（都道府県カルタ等）を視聴することができ、家庭学習にも活用できる。また、ワークシートもそのまま学習に利用できるよう準備されている。
  - まとめの学習に書き込みのできる欄があり、言語活動の充実が図られている。「まなびのポイント」や「まなび方コーナー」を生かすことで、児童が発展的に学習を進めやすくなっている。
  - 我が国の領土の東西南北端の島々が写真と紹介文で大きく、分かりやすく示されており、児童が島々の特徴を理解しやすい（5 年上 P13）。
  - 本県に関わる内容が豊富に紹介されている。
  - 6 年歴史で同和問題学習に関する記述が充実している。（6 カ所確認）

### 質疑応答

- 委員 Q. 竹島の領土問題や世界遺産の石見銀山等に関する記載について、各発行者を比較して調査員の中での見解はどのようなものだったか。

- 調査員代表 A. 竹島はどの発行者も記載があったが、石見銀山については記載のあるものもないものがあった。F社のものは『出雲国風土記』や隠岐の島についての記載が確認された。推薦図書においては、松江城をクローズアップして大々的に紹介している点で評価が高かった。
- 委員 Q. 推薦図書において、同和問題について指導しやすいとあったが、具体的にどのような部分でそう感じたのか。
- 調査員代表 A. 各社とも大差はないが、推薦図書においては、文字を強調しながらはっきりとわかりやすい記載がされていたため、指導しやすいように感じた。

## 地図

- 調査員代表 調査研究報告（資料3）  
推薦図書はJ社のもの。  
理由としては次のとおり。
- UD 文字（独自開発したものを含む）と色合いのバランスがよく、1ページあたりの情報量も適切で地図が見やすく、目的のものを探しやすい。
  - 初めて地図を活用する3年生にとってわかりやすく、地図に親しんだり興味関心を高めたりする工夫や配慮が多くページを使ってなされている。（P1～30）
  - 各ページで「地図マスターへの道」が設けてあり、興味関心をもたせながら地図活用の力を向上させることが期待できる。
  - デジタル端末に対応したアニメーションによる解説やクイズ、動画やVR画像等、631のQRコンテンツが設けてあり、学びを深めたり、意欲を高めたりできるよう工夫されている。
  - 世界の地図のページには、そのページに記載されている国の簡単なデータが写真付きで示されており、外国に興味を持つとともに外国語活動・外国語でも有効に活用できる。また、関連する人物や物語の舞台となった場所などの記述もあり、子どもたちの外国への興味関心につながる。
  - SDGsの取組について示してあり（P125～126）、世界の地図のページ（P83～94）には「世界のSDGs」が紹介されているため、日本や世界の課題に向き合おうとする姿勢につながる。
  - 囲み地図が設けられており、その地域の産業やくらしの様子についてより理解が深まるように工夫されていたり、巻末の資料図が豊富にあったりするなど各学年の学習内容に沿った資料が豊富にある。
  - 「日本固有の領土」として、北方領土や尖閣諸島とともに竹島も同じページに記載されており、分かりやすく書かれている。（P31～32）
  - 自然災害に備えての記載が充実している。過去の災害だけでなく、未来に向けての災害への備えを記述するとともに、地域の防災マップ作りへの発展も視野に入れて構成されている。（P99～102）

## 質疑応答

委員  
調査員代表

Q. 地図の立体感はどのように感じたか。  
A. 鳥瞰図としては A 社の方がより立体的であった。

調査員代表

### 算数

調査研究報告（資料 3）

推薦図書は F 社のもの。

理由としては次のとおり。

- 全体的に説明が少なく、見やすい。
- 学習のまとまりごとに「課題→ステップ→話し合い→まとめ→たしかめ→練習」という展開で構成しており、学習の流れがわかりやすい。
- ポイントが 4 コマ漫画でまとめてあり、子どもの目にとまりやすく、理解しやすくなっている。
- 基礎基本の内容と発展的な内容のバランスがよい。計算問題の量もちょうどよい。多くの課題に取り組みたい場合には、巻末の「ステップアップ算数」で発展問題に取り組むことができるようにしてある。
- 単元のまとめで誤答しやすい問題を取り上げている。
- 「広がる算数」や「算数ワールド」で発展的な内容を扱っている。「広がる算数」では QR コードによる説明もあり、興味をもった子どもがより発展的に調べることができるようにしてある。
- 「学びの手引き」で、算数用具の扱いや数直線の書き方などを復習できるようにしてある。
- 学び合いの場面では、正答と誤答を提示する場合と、異なる方法を提示する場合の両方を設け、単元に応じた学び合いの仕方の工夫がしてある。
- 関連しているページを示すことによって、児童が既習のページに戻ったり、発展問題のページに進んだりできるようにしている。

調査員としては F 社を推薦しているが、A 社との間で迷っているのも正直なところである。F 社を推薦した理由は先述したとおりで、浜田地区の子どもたちの学びの実態に即した作りになっている。一方で、A 社の方が子どもたちの学び合いを重視したコンテンツが充実しているのも事実である。

また、教員の立場からしても、教科書の発行社が変わるのは負担が大きく、その面でもどちらを推薦すべきか悩んだところである。

しかし、多くの子どもたちにとって学習しやすい、問題量のバランスのよい教科書を選ぶことが子どもたちのためになると考え、F 社を推薦することにした。

### 質疑応答

委員

Q. 現場の教員の負担感を考えると A 社だが、子どもたちの学びのことを考えると F 社の方がより適しているということか。

- 調査員代表 A. A社も深い学びにつながる作りとなっており、重要な要素を含んでいるが、問題量を考えたときに浜田地区の子どもたちに適しているのはF社だと考えた。
- 委員 Q. プログラミング教育の観点から両者に違いはあったか。
- 調査員代表 A. A社は4年生以上、F社は全学年で取り扱っており、低学年からプログラミングに触れることができるのはF社の方である。
- 会長 Q. 教員にとって教科書の発行社が変わることは負担が伴うとのことだったが、子どもたちへの影響はどう考えているか。
- 調査員代表 A. 慣れ親しんだ教科書でなくなることもあり、子どもたちにも戸惑いはあると思う。
- 会長 Q. それを踏まえた上でもF社を推薦されるということではどうか。
- 調査員代表 A. 慣れと内容とは切り分けて考えた。

### 理科

- 調査員代表 調査研究報告（資料3）  
 推薦図書はA社のもの。  
 理由としては次のとおり。
- デジタルコンテンツが多く準備され、変化の様子等を適宜、動画で確認できるようになっている。また、コンテンツを活用した家庭学習にも対応できるようになっている。
  - 個別最適な学びができるよう、授業のサポートとしてデジタルの理科ノートが準備されている。
  - 単元導入に「レッツトライ！」という名称で体験したり、写真を見比べたりして問題の発見を促す構成になっている。
  - 単元末の発展部分が児童の生活と結びつきやすい内容である。また「ふりかえろう」「たしかめよう」のコーナーで自主学習への意欲を高めるよう工夫されている。
  - ユニバーサルデザインの視点に立って、文字の大きさや配色が工夫されているとともに、学びの流れが可視化され、見通しを持ちながら学習に取り組むことができる。
  - 5年生 P76 で県内の河川、6年生 P118 で県内の地層が紹介されており、児童の実生活と関連付けやすくなっている。
  - 「理科の世界探検」のページが設けられており、生活と結びついた発展的な内容を取り上げている。児童に理科の有用性を感じさせるとともに、理科の魅力を伝える内容となっている。

### 質疑応答

- 委員 Q. 写真の取り上げ方、効果についてはどのように感じたか。
- 調査員代表 A. A社及びB社の写真の取り上げ方が、子どもたちの興味・関心を高める上で効果的なものと感じた。
- 委員 Q. デジタルコンテンツは多く使われるようになっているのか。
- 調査員代表 A. 様々な場面で活用されるようになっている。実験が上手いかなかったときや、生物の観察などで活用することが見込まれる。

会長  
調査員代表

Q. デジタルコンテンツの充実度は、他社に比べて A 社が高かったのか。  
A. A 社の教科書は、様々な場面でのデジタルコンテンツの活用を意識した作りになっており、他社に比べて充実度は高いといえる。

## 生活

調査員代表

調査研究報告（資料 3）

推薦図書は K 社のもの。

理由としては次のとおり。

- A4 より縦 4 cm 短い正方形に近いサイズの上下巻であり、低学年の児童に扱いやすく持ち運びがしやすいサイズである。外での学習にも持って行きやすい。
- すべての児童にとって学びやすいインクルーシブ教育への配慮がなされている。
- 「すたあとぶっく」（上巻巻頭）は、17 ページと充実しており、新 1 年生が安心して楽しみながら学べる配慮や工夫がなされている（紙面が小サイズ、丸角、数字ルビ、写真やイラストを多く使用、幼児期写真からのスタート、児童の言葉や指導者の声掛け場面、保護者の方への説明、他教科との関わり）。
- 「3 年生へのステップブック」（下巻巻末）では、児童が自信と意欲をもって 3 年生へつながる工夫がされている（小寸サイズの観音開きで、幼児期から生活科の 2 年間、そして 3 年生へと学びのつながりが、ストーリーとして見てわかるようになっている）。
- すべての単元が「わくわく」（導入）、「いきいき」（主な活動）、「ぐんぐん」（振り返り）の 3 段階で構成され、学習指導要領に記載されている学習過程の基本に沿った流れで学習を進めることができる。単元全体の見通しを持ちやすく、授業計画も立てやすい。
- 紙面右下にめくり言葉（「もっと〇〇したいな」など活動の中で生まれた気づきや次への思いや願い）があり、児童の思いや願いをつなげ、興味や探究が続く仕掛けになっている。活動が途切れることなくスパイラルに学びを深めていくことに効果的である。
- 教科書内の「びっくりずかん」、上下巻それぞれの巻末にある「がくしゅうずかん」、QR コンテンツ内「デジタルたんけんブック」の 3 つの図鑑や QR コードを読み取って使用するコンテンツと豊富な資料が用意されており、気付きの質を高めて学びを深められる充実した活動や学習が期待できる。
- 「ひろがるきもち」や「おうちでもっとせいかつか」、「保護者の皆様へ」のコーナーがあり、家庭と連携して学びを支えていくことに効果的である。
- 表現物のまとめ方や発表方法、板書や掲示例、活動の場の作り方、教師の声掛けや立ち振る舞いなどが示されており、具体的な取組の見通しとイメージを持つことができる。
- 各単元末には、「できるかな できたかな？」コーナーがあり、振り返りの視点を資質・能力の 3 つの柱で整理されあり、指導と評価の

手がかりとなる。

各委員

質疑なし

調査員代表

### 音楽

調査研究報告（資料3）

推薦図書はH社のもの。

理由としては次のとおり。

- 歌唱、合奏等、楽曲のレベルが児童に適したものである。
- 全体を通じ、2学年連続での題材配置となっており、繰り返し学習することで音楽性の向上をねらうことができるよう配慮されている。また、奇数学年から偶数学年で発展した学習になるよう工夫されている。これらは、複式学級が多くある本地区の指導に適している。
- 教科書に出てくる「見つける」「考える」「演奏する」等のマークが学びの道しるべとなり、児童・指導者ともに学習のねらいが明確になる。音楽が専門でない担任でも指導できるよう配慮されている。
- 二次元コードが随所にあり、興味をもって学習に取り組むことができる。また、音楽づくり・リコーダーの取り扱い・練習曲等が入っており、友達と活動ができるようになっている。さらに、発展学習として家庭での学習につなげられるよう工夫されている。
- 島根県出身の演奏家が登場する（5年P44）。また、4年生では熊野大社さざれ石や裏表紙に石見神楽を取り扱っており、本県教育の基本理念である「島根を愛す」人づくりにつなげることができるよう配慮されている。
- 特集「著作権について」（6年P24）や「音楽のもっている力や役割」（6年P43）では、音楽科の学習が生涯学習につながるよう配慮されている。

### 質疑応答

会長

Q. デジタルコンテンツにおけるH社の優位性は。

調査員代表

A. ワークシートだけでなく、実際に動かせるコンテンツがあり、動画も充実している点である。

調査員代表

### 図画工作

調査研究報告（資料3）

推薦図書はC社のもの。

理由としては次のとおり。

- 教科書に示されているめあてが3観点で示されており、どの学年も簡潔で分かりやすい。特に重点を置くめあては赤字で示されており、指導者も付けたい力を意識して指導ができる。また、教科書下部に示された振り返りと上部に示されためあても一貫性がある。
- めあての3観点到合わせたキャラクターが吹き出しで発問を投げかけており、児童の思いが膨らむような仕掛けになっている。



- 活動中の児童の写真が表情豊かで、児童の「やってみたい」という意欲を高めるものになっている。
- どんな材料を使ってどのような手順で進めるのかが、絵や写真で分かりやすく示してある。
- 技法や作品例が多数掲載されており、児童の発想の手掛かりとなる。
- 学校行事や他教科との関連を意識した題材がある。また、教科書の下部に他教科のどのような力と関連するのかといった内容も書かれており、教科横断的な学習をする上で児童にとってもとても参考になる。
- 高学年では名画が多数掲載されている。写真も大きく、鑑賞にも使いやすい。
- 教科書の終わりにある「みんなのギャラリー」には、様々な地域の伝統文化や芸術が紹介されている。5・6年上には出雲の一式飾りもあり、地域の古くから伝わるものの美しさに目を向けるきっかけになる。
- 表紙の裏面にアーティストの言葉や作品の紹介がある。様々な芸術・文化にかかわる仕事に触れるきっかけになり、キャリア教育にもつながる。
- 題材ごとにQRコードがあり、読み込むとワークシート等がダウンロードできるようになっている。

#### 質疑応答

会長

Q. 推薦図書と現在使用している図書で発行社が変わるが、調査員の間で議論はあったか。

調査員代表

A. 教員にとっても、様々な題材を知ることが重要だと考えている。図画展の作品でも、教科書の題材が中心になることもあり、同じような題材の作品が多く見受けられる。教科書が変われば、題材も大きく変わるため、教員にも新しい発見があるのではないかと考えている。

#### 家庭

調査員代表

調査研究報告（資料3）

推薦図書はA社のもの。

理由としては次のとおり。

- 単元数が少なく、複式学級でも指導したり、計画が立てやすい。
- 考えながら製作できるように構成してある（P87, 116等）。
- 話し合い活動を取り入れ、言語活動の充実が図れるようにしてある。
- 成長の記録ページがあり、2年間での自分の成長を振り返ったり、見通しを持って学習したりできる（P6, 7）。
- デジタルコンテンツのワークシートや動画がわかりやすく使いやすいので、子どもたちの興味・関心を引くことができる。
- 早い段階でSDGsの取り組みが単元の中に組み込まれているので、それを生かして実践することができる（P42）。

- 発展的学習がわかりやすく、進めやすくなっているのので、長期休み等に取り組みやすい (P35, 66, 121)。
- 地域の中で、自分が大切な一員であるという自覚が育てられるような単元がある (P128～)。

#### 質疑応答

- 委員 Q. C社の教科書について、資料が豊富ということだったが、推薦図書については資料の少なさを補う何かがあったのか。
- 調査員代表 A. A社においても授業が成り立つ程度の資料は掲載されていたが、C社の方がより多く資料が掲載されていた。ただ、A社の教科書を採択した場合にも、掲載されていない資料は図書館の本で調べる等の対応は可能である。
- 委員 Q. C社の特徴として、「地域の食文化に興味を持てる」点を挙げられていたが、独自の食文化に関して、A社の方は記載があったか。
- 調査員代表 A. A社にも記載はあった。
- 委員 Q. デジタルコンテンツについては、両者を比較した結果、A社の方がわかりやすく、使いやすかったという理解でよいか。
- 調査員代表 A. そのとおりである。
- 会長 Q. 推薦図書は現在使用している教科書と同一の発行社のものだが、デジタルコンテンツの充実度は拡大していたか。
- 調査員代表 A. 拡大とはいえないが、C社のものよりも使いやすかった。ワークシートが少し変更された以外は、特に現在のものからの変更は見受けられなかった。

#### 保健

- 調査員代表 調査研究報告 (資料3)  
 推薦図書はA社のもの。  
 理由としては次のとおり。
- 教科書の冒頭に「保健の学習でこんな力をつけよう」と視覚化してあり、つけたい力がはっきりして、何を学ぶのか見通しをもちやすい。
  - QRコードを使って動画をみることができ、児童の学習が意欲的、主体的に行えるような工夫がある。
  - イラスト、写真、生活の流れ等の資料の情報量が多すぎず、バランスがととてもよく、児童が困惑せずに文章や資料に目を向けることができる。
  - 大切な言葉が太字になったり、解説で詳しく説明してあったりするので、理解しやすく、押さえやすい。
  - ユニバーサルデザイン、インターネットの使い方などの「資料」は、学びを人生や社会に生かそうとしたり、学びに向かう力を育てたりする工夫が図られている。
  - 学びの流れが4段階「気づく・見つける。調べる・解決する。深める・伝える。まとめる・生かす。」で毎時間設定され、児童も指導者

も学習の流れがはっきりとしていて見通しをもちやすい。

- 「まとめる・生かす」「解説」「まめちしき」で知識、技能を習得しながら、まとめができる。
- 各授業の最後のステップ4（まとめる・生かす）で、ポイントを再確認できるように（ ）にキーワードを記入したり、キーワードを使ってまとめたり、「自分にできること」を記入したりする欄がある。学習内容の深い理解につながったり、自分の生活とつなげたりすることに効果的である。

#### 質疑応答

- 委員 Q. 発行社が6社と多かったが、推薦図書が他社のものと比べて、推薦できるポイントが抜きん出ているか。
- 調査員代表 A. そのとおりである。選定の初期段階で、読みづらい構成のものや、イラスト等の資料が少ないものは候補から外した。そこから吟味した上で、構成や資料のバランスに優れていたA社を推薦した。
- 会長 Q. デジタルコンテンツにおいてもA社が優れていたのか。
- 調査員代表 A. 各社ともよさはあったが、その他全体のバランスを踏まえてA社を推薦した。

#### 外国語

- 調査員代表 調査研究報告（資料3）  
推薦図書はA社のもの。  
理由としては次のとおり。
- A4サイズのテキストで、見やすい構成となっている。
  - スピーチの素材や話題がより身近なもので、子どものしゃべりやすいものとなっている。
  - 各Unitにおいて、児童の日常生活から導き出される題材が選定されている。
  - 外国風のイラストや現代風のイラスト、多くの写真などを取り入れて、児童の関心を高める工夫がされている。
  - 巻末のカードが準備され、児童の興味を高める工夫がしてある。
  - Sounds and Letters では、各活動を楽しく行い、聞く・書く活動ができるように工夫してある。
  - Enjoy Communication で単元に関連する表現を用いて、児童同士で話す活動に取り組めるように工夫してある。
  - 別冊の Picture Dictionary (PD) を活用して、児童が家庭学習でも外国語を学ぶことができるように工夫してある。また、英語の会話で使える表現があり、活用しやすい。
  - PD が別冊になっているので、PD を見ながら書き写すことができる。
  - 1 ページに載っている英語の分量や内容が中学校に近く、中学校への接続が円滑になるものとなっている。
  - 英語が多く書いてあり、英語に触れる機会が多いため、中学校との接続がスムーズになる。

- 聞く、読む、話す、書く活動が多くできる。
- 書き込むところが十分あり、自分の考えを反映しやすい。

質疑応答

- 委員 Q. 書くことに力を入れると、中学校への移行はスムーズになると思うが、楽しむという部分が少なくなってしまうことを懸念している。ただ、実際に中学校の教員からは、小学校の時点である程度の英語を書く力は付けてきてほしいという声も聞く。今回の調査で、調査員の間ではどのような意見があったか。
- 調査員代表 A. 中学校では英語を書く場面が多くなるが、小学校ではコミュニケーションを通じて楽しむことが主になってくると思う。教科書を頼りながら、書くことも練習することである程度力を付け、それをもとに友達とコミュニケーションを取ることを大切にしていきたいと考えている。
- 委員 Q. 教科書内の情報が多いと、指導に係る負担が大きくなるのではないかと懸念しているが、調査員としてどのように考えているか。
- 調査員代表 A. 教科書の内容全てを授業で行おうと思うと指導者も苦しくなる。クラスの実態に応じて項目を取捨選択して、どこに重点を置いて指導するかを考えて授業を行えば、内容の多い教科書でも負担の少ない指導は可能だと考える。
- 会長 Q. A社別冊の『Picture Dictionary』の使いやすさ及び優位性について、具体的に伺いたい。
- 調査員代表 A. デジタルコンテンツが利用できる点で、家庭学習に活用しやすい。また、索引機能があり、会話表現も豊富なため、児童が英会話を試みる際に頼りになる。

道徳

- 調査員代表 調査研究報告（資料3）  
 推薦図書はI社のもの。  
 理由としては次のとおり。
- 1時間の学びのイメージを持って学習に取り組むことができる構成になっている。
  - 思考ツールや対話スキルを活用することで、多面的・多角的に考え、協働して問題解決に取り組めるように工夫されている。
  - 現代的な課題は、教材とコラムの構成でユニット化し、多面的・多角的に考えることができるように工夫されている。
  - コラムが付いている教材もあり、学びを日常生活に生かしたり、他教科とつなげたりすることができるような工夫がある。

質疑応答

- 委員 Q. 現在活躍し、話題になっている人物が掲載されているかという観点では選定されていないか。
- 調査員代表 A. そういった観点では選定は行っていない。

会長  
調査員代表

Q. 発行社が変わる影響についてはどのように考えているか。  
A. 現在使用している教科書には別冊のノートが付いており、学んだことや考えたことを書き込んで残せる点がよいという意見はあった。今回の推薦図書には別冊のノートは付いていないが、ノートは別で用意することも可能なため、同様の学習形態は取れると考えている。

会長

(2) 審議・選定  
それでは、各調査員から推薦された教科書について審議選定を行いたい。資料 5 をご確認いただき、推薦された教科書発行社について一種目ずつ確認していきたい。

各委員

《国語》 異議なし  
《書写》 異議なし  
《社会》 異議なし  
《地図》 異議なし  
《算数》

委員

・主体的で深い学びや、学び合いを重視しているのは A 社だったという報告だったため、そこが引っかかっている。

委員

・指導のしやすさ、及びプログラミングについて全学年で取り扱っている点を評価したい。調査員の推薦図書を支持する。

委員

・教科書の発行社がこれまでと変わることは不安もあるが、変えたことで研究し直すのもよいことだと思う。調査員の推薦に賛同する。

委員

・学びについて A 社が力を入れているのは事実であるが、F 社の教科書でも、教員の指導によって補える。学習の展開が明確であると現場の教員が判断したのであれば、調査員の推薦に賛同したい。

委員

・子どもたちからしても、これまでの教科書から変わるのも楽しいと思う。調査員の推薦図書が教員にとって指導しやすいものであれば、子どもたちも理解しやすいと思う。調査員の推薦図書を支持する。

→ 調査員の推薦図書を選定

委員

《理科》 異議なし  
《生活》 異議なし  
《音楽》 異議なし  
《図画工作》 異議なし  
《家庭》 異議なし  
《保健》 異議なし  
《外国語》 異議なし  
《道徳》 異議なし

会長

全ての種目について、調査員代表から推薦された教科書発行社を選定した。

今後のスケジュールについて、事務局から説明されたい。

事務局

資料により説明（資料1・6）

会長  
各委員

今後のスケジュールについて、質問・意見等はあるか。  
質問・意見等なし。

会長  
委員  
事務局

その他、質問・意見等はあるか。  
今回は調査員会をオンラインで行ったが、支障等はなかったか。  
支障やトラブルは確認していないが、複数の調査員から現地集合での開催希望があった。来年は中学校の教科書採択があるが、現地集合に戻すことも含め、開催形態を検討したい。

会長

以上で第2回浜田地区教科用図書採択協議会を終了する。